

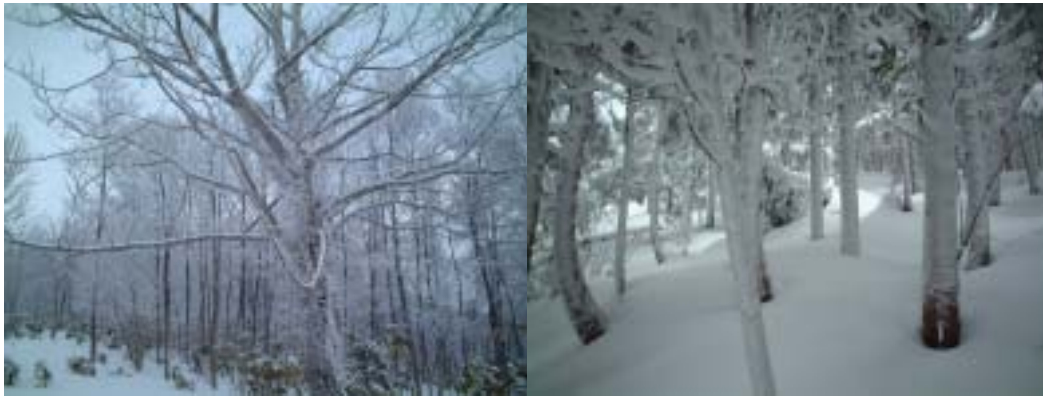
氷ノ山 山スキー

新戸倉トンネル～氷ノ山山頂

日時：2003年2月1日(土)～2月2日(日)

メンバー(敬称省略)：石野美輝朗、横小路利郎、大塚賢一、大倉康治、大本誠一

山装備を整え、スキーの練習をし、荷物を背負って男山、雪彦山を登るトレーニング。ボクはこれらをすべては山スキーの為にやってきたと言っても過言ではない。そして、ついに本番へ・・・！！



氷ノ山通算 4 回目(頑張ってカウントしていこう)。すべて違う方面からの登山。今回も違う(途中からは昨年12月のXC&スノーシューで登った三ノ丸非難小屋へのルートに通じている)。懐が深いというか...雪が付くとこんなにいろいろなところから登れるのか。

2日間の氷ノ山 1500m 付近の気象状況は山溪(<http://www.yamakei.co.jp/>)の予報で調べると、天気 曇、気温 -8 度、風 北の風 7m。さ、寒い...?(実感が無いのであまりわからない)。

2月1日

4:30

コンビニ「ポプラ」に集合のはず、みなさん早い。時間通りに行ったつもりが遅刻扱い。ボクは「すきや(牛丼屋)」へ直行する羽目に。食事を済ませいざ出発。途中、木倉

さんと合流。峰山へ XC する予定だと言う。折角だから我々と一緒に行動を共にすることになった。

6:50

新戸倉トンネル付近の駐車場に到着。天候は曇。気温は -1 度。山はガスに覆われている。

7:20

出発。新戸倉トンネル横の林道よりスタート。初めてのシールだった。林道を登る。「うわ、ホンマに登れる！」と感動。雪の締まり具合もよく、蹀ラッセルである。本日の行程は頂上まで。昼過ぎに着く予定。道のりは長い。気合を入れる。



林道 シールでの登りは快適そのもの

8:20

700m のピーク。ここで高度計を合わせる。雪がちらついてくる。

9:00

1030m 林道の脇から県境稜線めがけて登る。林道から外れるため、木倉さんと別れる。途中、吹き上げの風がすごかったのだろうか、幹の谷側が完全に雪に覆われているすばらしい樹林帯を登る。



幻想的な樹林帯に囲まれて大満足の大塚さん

9:20

1075m 県境稜線へ出る。三ノ丸方面が見えるはずだがガスで覆われて何も見えない。地図を確認する。まだまだ先は長い。

10:45

12月に行った三ノ丸のルートに合流。殆どの笹は見えない。雪の量は桁違いだ。あの時とはぜんぜん景色が違うブナ、ミズナラの樹氷に出会えた。晴れてくれれば最高なのにガスが次第に濃くなっていく。ボクはここあたりからガス欠。腹が減って仕方がなくなってきた。行動食を食べる。チョコレートと飴。2/3も食べてしまった。後が思いやられる。



ものすごい樹氷の中を進む。この時期限定、賞味期限つきの景色である。

11:55

樹林限界。三ノ丸の雪原が姿を現す。視界は200m程だろうか、景色は堪能できなかった。吹きさらしの雪原なので登れば登ほど雪と風が強くなっていく。

12:35

三ノ丸休憩所(非難小屋より200m程南)に到着。猛吹雪のためカッパ、ゴーグル、フェイスマスクを着用。ここまでシール歩行の大汗が嘘のように引いていく。かなり風がキツイ。ここは日本海からの風が直で当たるため、稜線上は雪も風も半端ではない。

ここから約1時間で山頂である。足はツアブーツで彼方此方激痛が走る。鼻からは鼻水が流れ出る。一刻も早く着きたい気持ちでいっぱいだった。視界は100m程。



三ノ丸展望台 - 雪がへばり付いている

モンスターに感激

13:25

氷ノ山頂上小屋に到着。安堵。靴が脱げて最高の開放感と達成感。氷ノ山頂上小屋の2階で冷えと空腹のためラーメンタイムに入る。最高にうまい。酒も少し入る。

15:00

よく考えると山スキーといいながら滑ってない。と、ここで少し山頂辺りを滑り込むこととなった。ザックを山頂にデポして、シールを外し滑り体制。

15:30

ブナ林帯を滑る。雪はふわふわのパウダー。コケてもへっちゃらということで、1度思いつきりコケました。最高～。しかし、登り返し…。ここでシール張りという最大の難関が待ち構えていた。ボクのシールは雪が多少ついては大丈夫のように思いつきり引っ張ってスキーに引っ掛けるように調節してある。ボクの左手親指内側靭帯を長い間患っているため右手でやるしかない。なかなか力が入らなくて付かない…。みんなに遅れること10分。2回目の滑り込みは4時半になってしまった。ヤバイということで途中から即、滑り込む。2回目は1回目の教訓が効いたのかシールがへたったのかすんなり付いた。時間がヤバイ。辺りは大分暗い。視界も50m程に。滑ってきたトレースは非常に見えにくい状態に。

17:30

日没寸前に山頂小屋に到着。滑るのは5分程、装備変更に5分、登るのは40分。なんというしんどい遊びだろうか。

夜

実は泊まり2回目(1回目は北アルプス)。氷ノ山山頂小屋は最高である。布団、毛布、畳がある。パーティは我々だけなのでおしげもなく使いまくる。外は-10度。中もそれなりに寒かったが皆で食事(五目御飯、スープ etc...)を摂り、しゃべり、宴会状態。温まったところでいつの間にか寝ていた。



小屋でオーラを発する石野さん

2月2日

6:00

寒さで起床。窓が3mm程開いていて、顔に雪が降っていたのだ。寒いわけだ。帽子を被り、もう一度寝る。

7:00

起床。天気は昨日と違いはない。本日も遊ぶ予定をしていたが、視界が狭いので断念。溜まっていたトイレを済まし、朝食。わかめご飯、スープ、カプチーノを取る。何を食べても美味い。これだけは行った者しかわからないだろう。

9:15

準備を済まし、下山開始。山頂小屋を出発。始めはスキーで滑り込む、途中でシールを付け、三ノ丸までの起伏と戦う。相変わらずのガスと吹雪。ゴーグルが息で凍りつく。景色は昨日とさほど変わらないがトレースが吹雪の為に全く消えてしまっていた。



大自然の中の人間はホントに小さい存在なのかもしれない

10:15

三ノ丸展望台到着。ここからは下り。シールを外し慎重に雪原を滑り込む！間違えると非常に厄介であるのでコンパスを合わせる。雪原が終わり、ブナの樹林帯に出ると昨日我々がきたトレースを無事発見できた。消えてはいなかったようだ。それに沿って県境稜線を進む。本当にトレース通りに正確に下る。林道に出ると、下りはさらに快適になる。

13:15

新戸倉トンネルに到着。無事下山。

総括

初めての山スキー。非常に濃密な2日間を過ごしました。新雪スキーは最高でした！しかし、いろいろと課題も見えてきました。これからもっと楽しく遊ぶためにもっと精進します。

1.靴(ツアーブーツ)

足の外側の小指の付け根が痛い。インナーの感触はなく直でシェルに当たっているようだった。下山は常に激痛。林道と樹林帯は辛かった。改善せねばならない。

2.手袋

今回はブレスサーモ2枚、フリース3枚、GORE-TEX1枚を用意した。スキーの時はGORE...でいいのだが行動時はブレスサーモとフリースだけでは手が冷たすぎる。GORE...だと暑い。少し大きめのアウター手袋があった方がよさそうだ。

3.シール

難敵であったシール。装着に時間が掛かったのだが、帰宅中に大塚さんと同じシールということでつけ方を伝授してもらった。次回からはすんなりいけるといいのだが。



まだまだこれからです。がんばるぞぉ！！